

博士課程教育リーディングプログラム 事後評価結果

機 関 名	金沢大学	整理番号	L01
プログラム名称	文化資源マネージャー養成プログラム		
プログラム責任者	柴田 正良	プログラムコーディネーター	鏡味 治也

博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価

[総括評価]

概ね計画に沿った取組が行われ、一部で十分な成果がまだ得られていない点もあるが、本事業の目的をある程度は達成できたと評価できる。

[コメント]

リーダーを養成するための学位プログラム、体制等の構築については、文化資源マネジメント領域でグローバルに活躍するリーダーを育成する学位プログラムが一定程度構築され、ある程度の成果を得られたと評価できるが、経営学の専門家が経常的に配置されないなど、広範かつ体系的な教育研究指導體制の構築の点については不十分である。本プログラムでは、補助金の大部分が特任教員の人件費と学生の奨励金に配分され、また、英語翻訳に係る経費が多いなどの偏りが見られる。補助金による支援が未来の知の地平を拓くことのできる俯瞰力や独創力を有するグローバルリーダーの養成にいかにか寄与しているのか、必ずしも明確ではない。

修了者の成長とキャリアパスの構築については、海外協定校との連携等で国際的ネットワークが構築されるとともに、金沢市や能登半島等の地元の産学官との連携によって教育研究面で大きな成果を得られていることは評価できる。一方で、第1期生の修了者のキャリアパスをみるとアカデミア志向が顕著であり、グローバルに活躍する多様なキャリアパスの開発や指導などが十全ではない。特に日本人学生へのキャリアパスの指導體制は不十分である。現時点では世界的に文化資源マネージャーに対する必要性がまだ十分に認識されておらず、産学官の連携・協力により文化資源マネージャーの存在意義を広く知らしめることが必要不可欠であり、今後、本プログラムには、そのための先導的な役割を果たしていくことが期待される。

事業の定着・発展については、支援期間終了後も、履修生に対する経済的支援方策が検討されている点は評価できる。本プログラムは、大学院人間社会環境研究科において英語で学位取得可能な「文化資源学プログラム」として継続される予定であるが、本プログラムが育んできた「多文化共生社会」への貢献を前提にしたグローバルリーダーの養成に必要な国際性のみならず、学際性や総合性などの視点に基づき、最高学府に相応しい大学院の形成に向けて、英語プログラムに留まらない全学的な視点でのプログラムとして継続されることを期待したい。